

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 25 年 9 月 5 日 (2013.9.5)

【公開番号】特開 2012-63579 (P2012-63579A)
 【公開日】平成 24 年 3 月 29 日 (2012.3.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2012-013
 【出願番号】特願 2010-207695 (P2010-207695)
 【国際特許分類】

G 0 2 B 5/02 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/02 C

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 7 月 19 日 (2013.7.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

透明支持体、および、該透明支持体上に形成され該透明支持体と反対側に微細な凹凸を有する微細凹凸表面を備えた防眩層を含む防眩フィルムであって、

内部ヘイズが 1 % 以下であり、表面ヘイズが 0 . 4 % 以上 1 0 % 以下であり、かつ、

前記微細凹凸表面の標高を測定した際の平均より求められる平均面である前記微細凹凸表面の平均面に垂直な主法線方向から入射し、前記微細凹凸表面のうち標高が最も高い点を含み、前記微細凹凸表面の平均面に平行な仮想的な平面である最高標高面から出射する波長 5 5 0 n m の平面波について、

前記最高標高面における複素振幅を前記微細凹凸表面の標高と防眩層の屈折率から計算し、

該複素振幅の一次元パワースペクトルを空間周波数に対する強度として表したときのグラフが、空間周波数 $0 . 0 3 2 \mu m^{-1}$ 以上 $0 . 0 6 4 \mu m^{-1}$ 以下の範囲内において、2 つの変曲点を有することを特徴とする防眩フィルム。

【請求項 2】

前記複素振幅の一次元パワースペクトルの空間周波数に関する二階導関数が空間周波数 $0 . 0 2 4 \mu m^{-1}$ において正である、請求項 1 に記載の防眩フィルム。

【請求項 3】

前記微細凹凸表面のうち、傾斜角度が 5° 以上である微小面の割合が 1 0 % 未満である、請求項 1 または 2 に記載の防眩フィルム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本発明は、透明支持体、および、該透明支持体上に形成され該透明支持体と反対側に微細な凹凸を有する微細凹凸表面を備えた防眩層を含む防眩フィルムであって、

内部ヘイズが 1 % 以下であり、表面ヘイズが 0 . 4 % 以上 1 0 % 以下であり、かつ、

上記微細凹凸表面の標高を測定した際の平均より求められる平均面である上記微細凹凸

表面の平均面に垂直な主法線方向から入射し、上記微細凹凸表面のうち標高が最も高い点を含み、上記微細凹凸表面の平均面に平行な仮想的な平面である最高標高面から出射する波長 550 nm の平面波について、

上記最高標高面における複素振幅を上記微細凹凸表面の標高と防眩層の屈折率から計算し、

該複素振幅の一次元パワースペクトルを空間周波数に対する強度として表したときのグラフが、空間周波数 $0.032\text{ }\mu\text{m}^{-1}$ 以上 $0.064\text{ }\mu\text{m}^{-1}$ 以下の範囲内において、2つの変曲点を有することを特徴とする防眩フィルムを提供する。